
GOD EATER 神と人と

グレッグ・ハウス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G O D E A T E R 神と人と

【Nコード】

N 9 8 4 1 0

【作者名】

グレッグ・ハウス

【あらすじ】

あらすじ&キャラ紹介

西暦2071年。地球は、あらゆるものを捕喰する細胞「オラクル細胞」から形成される異形の怪物「アラガミ」によって荒廃し、彼らの“食べ残し”である人類は滅亡の危機に瀕していた。人類の対抗手段は、生化学企業「フェンリル」によって開発された生体武器「神機」とそれを操る「ゴッドイーター」だけだった……

そして現在西暦2072年

フェンリル極東支部に新しい小隊が出来た

これはその小隊の、時に楽しく、時に悲しく、時に笑える話である
・

キャラ紹介

ここで用語説明を軽くしておこう

神機使いには新型と旧型がある

そして新規にはブレード（剣）と銃がある

新型と旧型の違いは両方使えるか片方しか使えないかの違いである

旧型神機使いは剣もしくは銃どちらかしか使えない

新型は両方同時に使える（操作によって変形する）

と言うだけである

武器の種類の説明もしておこう

まず剣には3種類

ショートブレード（スピード重視、威力は低め）

ロングブレード（長さ、威力、スピードともにバランスタイプ）

バスターブレード（ロングやショートよりもさらに大きく、扱うに

は結構な腕力が必要。かなりの破壊力）

銃も3種類

アサルトタイプ（連射に優れている）

ブラストタイプ（破壊に優れている）

スナイパータイプ（狙撃などに優れている）

捕食形態

神機からアラガミの頭のような物が出て来て

アラガミ、もしくはアラガミの死体を補職する形態

旧型の銃は使えない

外部居住区

一般人の居住区

アラガミの襲撃がたびたび起こるため、防衛班によって守られている

アナグラ

ゴッドイーターが生活する巨大な基地

アラガミ装甲に守られており、安全性は外部居住区と比べると天と地の差

ーキャラ紹介ー（定期的にここは更新、公式キャラの説明は一部wikiより引用）

伊藤・豺（いとう・さい）19歳

本作の主人公A

今年フェンリルに入隊し、極東支部（要するに日本）に配属になった新型神機使いの（ロング/アサルト）

実戦経験こそは少ないが演習ではかなりの成績を出している

性格はクール系と思えば以外に明るかったり

気分の変化が激しい人物である

趣味はアニメ

アラガミ達の手によって文化は荒廃してしまった今の時代、荒廃したのはアニメと言う文化も例外ではないのだが

無駄な努力により、アニメ関連の映像などをすべてコンプリートしている

よくエリア112（当時は秋葉原と呼ばれていた）に訪れる

仲村・隆（なかむら・りゅう）19歳

豺の幼なじみ

豺と同じく今年入隊し、極東支部に配属になった神機使い

しかし豺とは違い旧型神機使い（アサルト）である

豺と同じくアニメ好きで

任務の途中漫画に没頭し荒神に殺されかけた事がある

演習結果も戦績も優秀ではない

神田・ミト（ショートブレードかんだ・みと）19歳

旧型神機使いの剣

高校時代材とは同じ学校だった

可愛いキャラに見えて趣味が異様

カノンさんと仲が良い

雨宮・リンドウ（あまみや・りんどう）26歳

フェンリル極東支部第一部隊の元リーダー。階級は少尉。使用神機は旧型の剣ロングブレード

どうやらかなり凄い過去の持ち主のようである
なんと右腕が荒神化している

性格は楽観的で人から見れば駄目人間だがリーダー、そしてゴッドイーターとしての腕はかなりの物で彼と共に任務に出た神機使いの生存率は95%とかなり高くそれが理由で新人と共に任務に出る事が多い

橘・サクヤ（たちばな・さくや）21歳

2065年入隊

第一部隊のサブリーダー。使用神機は旧型の銃。スナイパー

判断力・統率力が高く評価されているため、他の部隊長クラスのミッションをこなすこともある。入隊から2年間は極東支部のオペレーターを務めていた。

部隊長レベルの戦闘力と統率力を持っており、狙撃手、衛生兵としても抜群の動きを見せるため、未確認アラガミとの戦闘が発生する際に召集されることが多い。

ソーマ・シクザール（そーま・しゅくざーる）18歳
2064年入隊

第一部隊隊員

弱冠12歳でゴッドイーターとなった青年で、ずば抜けた身体能力や五感を持つ。使用神機は旧型の剣^{バスター}。神機使いとしての腕もかなりの物。性格はクール系。物静かな少年で、群れるのを好まない。

藤木コウタ（こうた） 15歳

2071年入隊、第一部隊隊員

使用神機は旧型の銃^{アサルト}

現代アニメバガラーの大ファン

アリス・イリーニチナ・アミエーラ（ありさ・いりーにちな・あみえーら） 15歳

ロシア支部から赴任してきた新型ゴッドイーターの少女。使用神機は新型の（ロングブレード/アサルト）

過去に両親を目の前でアラガミに殺害された経験を持つ

性格は少しツンデレが入っているような感じ

口癖は「ドン引きです」

ペイラー・^{ペイラー・さかき}榊 47歳

フェンリル極東支部技術開発統括責任者でフェンリル創設メンバーの一人。

アラガミ研究の第一人者で、ゴッドイーター達の座学教官担当。眼鏡を掛けている。研究熱心で、独り言をよく言う。森羅万象が観察対象であり、自らを「スターゲイザー（星の観察者）」と称し、物事を冷静に見つめている。

アラガミとの共存の可能性に希望を抱いており講義でも度々それをほのめかす。人類を保護するアラガミ防壁の基盤を開発した人物でもある。

竹田ヒバリ（たけだ・ひばり）17歳

極東支部のオペレーターであり、主にミッションの発注管理、報酬の支払処理を担当している。

神機使いの適合候補者リストに名があるものの、現在のところは適合する神機が見つかっていない。

タツミに何度も熱烈なアプローチを受けており、リツカにそのことを聞かれるともの凄く恐い顔になる。

楠リツカ（18歳）

神機整備班に所属する整備士。正式に配属となったのは2年前だが、既に5年以上前から整備班のクルーとして活躍していた。亡き父もフェンリルの技術者であり、その技術力を継承している。

大森・タツミ（おおもり・たつみ）23歳

2063年入隊

第二部隊（防衛班）隊長

使用神機は旧型神機ショートブレードの剣

ナリー・キング（なりー・きんぐ）22歳

本作の主人公B

今だ謎が多い新型神機使い

使っている神機は新型の（バスターノブラスト）

彼女が手にするバスターブレードはノコギリのような形をしておりその神機にある多数の傷からかなりの経験者である事が分かる

普段からほとんど喋らず

その物静かさはソーマ以上

彼女を目の前にしたアラガミは必ず原形をとどめなくなる程打ちのめされる

階級は中尉

キャラ紹介（後書き）

時間があればドンドン更新する予定です

よろしくお願いします

始まり（前書き）

今年入って来た主人公 狃

彼は仲間達と共に順調に任務を進めて行く

一方皆の兄貴 事リンドウはこの日

第2接触禁忌種と呼ばれるアラガミの討伐任務が待っていた

そのリンドウと同行するのはナリーと言う名の ある神機使のだが

・
・
・

始まり

朝7時・・・

ここは旧市街地

過去にアラガミから逃れた人々が避難していた場所だ

しかし今ではもう人の影は・・・無いと言う訳ではない

一般市民は絶対に来ない（って言うか入れない）がゴツドイター達は良く訪れる

そして新人ゴツドイターも初の実戦をここで経験する事が多いだからと言ってアラガミが少ない訳でもないのだが

グシャア！

派手な切断音がこの町に響く

人が切られていると言うオゾマしい事ではなく

狢がアラガミをぶった切っているのだ

どてっ・・・

狢「ザコいんだよ」

隆「凄いよミト！・・・狢の奴1分でオウガテイル倒しちゃったよ！」

ミト「狢は優秀だもんね！」

ミトはそう言うとう自分の神機を捕食形態にし

狢によって切り倒された死んだオウガテイルを「もぐもぐ」などと言いながら捕食する

狢「やめろよ」

隆「悪趣味だつて．．．」

ミト「大丈夫だよ！」

隆「そう言う問題じゃなくて．．．」

隆「狢！．．．後ろ！」

狢「．．．！」

狢が振り向くとオウガテイルが飛びかかってくるのが見えた
しかし

間一髪所で誰かがオウガテイルを撃ち落とすが如く神機で真つ二
つに

その誰かとは．．．リンドウさんだ

リンドウはもう何年もゴッドイーターとして活動してる経験豊かな
神機使い

そしてアラガミ討伐の腕も　もの凄い

タツミをのぞく極東支部の神機使いの新人時代を支えて来た人物で
もある

ミト「リンドウさん！」

狢「あ．．．た．．．助かりました．．．」

リンドウ「おいおい．．．オウガテイルに一分かけて喜ぶ奴がいる
か？．．．まったくまだ甘いぜ」

狢「．．．」

隆「いまリンドウさん一撃で．．．！」

リンドウ「このぐらいできて当然だ、って言うかこの任務．．．
目的はなんだ？」

ミト「オウガテイル2体の討伐です．．．ミッションは終了ですね
リンドウ「よし．．．行くぞ」

隆「．．．そう言えば今週の配給なんだっけ」

ミト「えーと．．．」

狢「あのデカイリンドゴだろ」

隆「あのリンゴのくせに味が無い奴!？」

リンドウ「配給に文句言つてると身が持たないぞー．．．早く行こうぜ、デートに遅れる」

ミト「サクヤさんとですか？」

リンドウ「違うな」

隆「それって浮気じゃないですか!」

リンドウ「ほらほら、家に帰るまでがミッションだぞ」

ミト「最低!」

数時間後．．．アナグラにて．．．

帰って来た豺達は汗を拭き

着替えた後アナグラのロビーに集まって話をしていた

ミト「ひゃー．．．ジュースのーみたあーい」

隆「食堂行こうぜ」

ミト「そーだねー」

豺「知ってるか? ジャイアントウモロコシって大量に醤油かけるとウマいんだよ」

ミト「えー．．．でもそれって不健康じゃないですか?」

隆「多分現役でアラガミに殺される以前に健康問題で死ぬよ君」

「???」．．．．．邪魔だ．．．．．どけ．．．．．」

隆「．．．．．キャ」

ミト「．．．．．キャ．．．ソーマせんばあい!?!」

突然邪魔だと怖い顔で言つて来たのはソーマさん

ミトの反応がアレなのはソーマに気があるからだ

隆も地味にそうなのは．．．．．きつとアレなんだ、気にしては行けない↑ここ重要

あーだこうだ話しているうちにリンドウの妻サクヤと隆と気が合うコウタが来た

サクヤ「あらあら．．．皆で楽しそうね」

コウタ「なあー．．．バガラリー見てる人ー！！！」

隆「はいはいはい！！！！！」

コウタ「やつと見始めてくれたんだな！．．．何話まで見た？」

とりあえずバガラリーと言う番組の話で盛り上がる2人は置いておいて

ミト、ソーマ、狛とサクヤで会話スタート

サクヤ「任務はなれた？」

狛「あ．．．はい」

ミト「狛って強いんですよー！．．．オウガテイル一分で倒しましたから！」

サクヤ「．．．そ．．．そう．．．次はなんてアラガミを？」

狛「．．．んー．．．たしか．．．コンゴウとか言う．．．」

サクヤ「．．．あのゴリラ系のアラガミね」

ミト&狛「強いですか？」

サクヤ「なれば簡単よ．．．でも．．．油断は駄目よ？」

ミト&狛「．．．はい」

サクヤ「．．．私が同行．．．って．．．このミッシェン．．．私とリンドウが

同行する事になってるじゃない．．．」

ソーマ「．．．奴は今日．．．接触禁忌を潰しに行くって聞いたんだが．．．」

サクヤ「．．．えー．．．ならソーマが来てね」

ソーマ「断る．．．」

サクヤ「任務受付所に名前書いておいたから」

ソーマ「．．．．．チッ」

そして15分後・・・

アナグラの出口前にて・・・

何故か隆はコウタと共に置いて行かれ任務には出ずに

任務参加者は最大人数4人のサクヤ、ミト、豺、ソーマである

周りにも何組か先輩同行の新人部隊が・・・

彼らは彼らなりの方法で緊張をほぐしていた

新人神機使い1「・・・そんな装備で大丈夫か？」

新人神機使い2「大丈夫だー問題ない」

新人神機使い3「一番良いのをくれ」

新人神機使い1「一番良いのは無い」

サクヤ「皆慣れてないから落ち着かないのね・・・」

豺「・・・あ・・・あれってリンドウさん・・・」

豺は少し離れた所に準備中のリンドウさんがいる事に気がつく

そして良くよく見るともう一人誰かが・・・

身長は160～170、髪の毛は少し巻き毛がかかり

左目には眼帯

ミト「あー・・・あれって例の浮気相手ー？」

サクヤ「あー・・・デートとか言ってた？」

ミト「はい！・・・最低ですよねっ」

サクヤ「こらこら、真に受けちゃ駄目よ、彼が言っデートは強いアラガミとの戦闘の事」

豺「さすがリンドウさんだ」

ソーマ「・・・ただの馬鹿だけだな・・・」

豺「・・・じゃあ・・・あの人は・・・あ・・・出発しちやった」

サクヤ「私達もそろそろ行くわよ」

ミト「はあい！」
才「了解」

その頃．．．

旧市街地にて．．．

リンドウは接触禁忌せつしよくんきと呼ばれる

一般神機使いでは接触すら禁止されている強いアラガミを打ちに来ていた

そして今リンドウの横にはもう一人．．ある神機使いがいた

この神機使い、衛星とつながったパソコンを使ってアラガミの居場所をチェック

どうやら筋機種のアラガミは目の前にある巨大な教会の後ろにいるようだ

リンドウ「．．．中尉、奴は？」

ナリー「．．．．．ナリーで良い．．．」

リンドウ「．．．ナリー、奴は？」

ナリー「．．．．．A地点．．．どこから行く

?．．．．．」

リンドウ「じゃあ俺はこっち側から行く」

ナリー「．．．．．逆から行く．．．．．」

そして禁忌種の居場所を特定した上で、2人は挟み撃ちにするかの

ように別々の方向から

ターゲットへ向かった

リンドウはダッシュでビルの後ろへ．．．．そしてついた．．．

が．．．

そこで見た物はボロボロになった禁忌種のアラガミ

その上には巨大なノコギリ型のバスターブレードを振り下ろすナリー

リンドウ「あちゃー．．．これ決着だな」

ナリー「．．．．．捕食．．．．．」

リンドウ「じゃ俺も」

ナリーがそう言う

リンドウはナリーと共に神機を捕食形態にし

死んだ禁忌種のアラガミを神機で捕食した

リンドウ「．．．．．禁忌種のヘラをこんな早さで倒すなんてな、

もう俺には教える事は．．．いや

今度は俺が教えられないとな」

ナリー「．．．．．眠い．．．．．」

禁忌種．．．それは支部によつては軍隊を導入する程危険な種類であり

そうそう倒せる物ではない

全世界の支部で禁忌種をこんなにあっさりと倒してしまうのはこの2人ぐらいだ

とくにナリー中尉

彼女の神機使いとしての腕は尋常じゃない

重さ70kgを超える神機を軽々と振り回す彼女はアラガミにとつての脅威とも言われている

アジアのどこかで彼女と同じ顔のヴァジュラが出現した程だ

ナリー「．．．．．眠い．．．．．」

リンドウ「．．．帰るか！」

ナリー「．．．．．賛成する」

そして2人はアナグラへと帰った．．．

始まり（後書き）

次回

豺は順調にアラガミ達を倒し続け
いよいよ難所のヴァジュラと戦う事に！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9841o/>

GOD EATER 神と人と

2010年11月23日16時46分発行